

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード		06-04-01		戦略プラン		☐ 協働 ☒ 業務 ☐ 財務 ☐ 人事		
事務事業名		観光情報提供事業		部課名		産業経済部観光振興課		
				課長名		杉山		
				担当者名		野村・増山・斉・大久保		
				内線		461		
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）		01-01-01		観光情報提供事業				
事務事業の種類		☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業		
開始年度		平成 14（2002）年度		根拠				
終期設定		☒ 有 ☐ 無 令和 7（2025）年度		法令等				
実施基準		☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分		☒ 計画 ☐ 非計画		
行政評価 事業体系		分野		Ⅲ 産業革新都市				
		政策		06 人が集う魅力あるまちの形成				
		施策		02 受入体制の充実と観光情報の発信				
目的		荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。						
対象者等		区外の人々及び区への来訪者						
内容		①イベントカレンダー作成（H14～） ②HPに区内行事のインターネット動画配信（H14～） ③まちあるきマップ作成（マップとその増改訂履歴は以下の通り【南千住】H17, H19改訂, H21改訂, H24改訂, H28増刷, H29増刷, H30改訂, R3増刷、【日暮里】H17, H19改訂, H21改訂, H27改訂, H28増刷, H29増刷, H30増刷, R1改訂、【都電】H18, H20改訂, H22改訂, H28増刷, H29改訂, H30増刷, R4改訂, R5増刷【日暮里谷中散策】H21, H27増刷, H28増刷, H29増刷, R2増刷, R4増刷【千住散策】H17, H28改訂, R4増刷 ④観光情報PR協力所設置75か所（R6. 6. 1現在） ⑤行政観光パンフレット作成（H20作成, H23改訂） ⑥観光スポット特集冊子作成（H20） ⑦京成日暮里駅構内PRコーナー運営（H24～） ⑧イメージポスター作成（H24） ⑨日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新（H25～、R5終了） ⑩南千住駅構内PRコーナー運営（H26～） ⑪おいでよ！あらかわ改訂（R1） ⑫観光アプリ開始（R1～） ⑬ことりっぷ日暮里発行（R3） ⑭外国人向け区内PR動画のインターネット配信（R4～） ※（数字は年度）						
経過		○平成22年度、観光ボランティアガイド事業を受入体制整備事業へ移管 ○区内行事のインターネット動画配信 都電荒川線のバラ、諏訪神社御神幸祭、素盞雄神社天王祭、八幡神社例大祭、元三島神社神大祭、石浜神社神幸祭、胡録神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、熊野前サンバカーニバル ○平成14年度に開設した都電荒川線花見どころサイトは、産業ホームページの廃止に伴い、平成27年度に区ホームページへ統合 ○平成24年度に開始したTwitterは、平成28年4月1日をもって広報課アカウントと統合						
必要性		多様な情報発信により、区のイメージアップ及び来訪者の増加が期待できる。						
実施方法		（ ☒ 一部委託） （直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員）						
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度見込み	目標値(8年度)	
	①	区ホームページ観光サイトアクセス数	-	-	129, 180	135, 000	150, 000	
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度		7年度						
重点的に推進		重点的に推進		区のイメージアップと区外からの誘客を図るため、区内外に向け、趣向を凝らした情報発信により、重点的に推進する。				

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	観光PRチラシ作成費ほか	792	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	865	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	2,412
委託料	観光アプリ運用保守ほか	4,178	委託料	観光アプリ運用保守ほか	1,836	委託料	観光アプリ運用保守ほか	1,942
使用料	イラストレーター利用料ほか	55	使用料	イラストレーター利用料	53	役務費	デジタルスタンプラリシシステム利用料	173
備品購入費	区内PR動画撮影用スマートフォン	109	工事請負費	日暮里駅前広場電子掲示板撤去	943	使用料	イラストレーター利用料	66

備考	行政費用は給与関係費を除くと物件費が主で、観光アプリ保守1,306千円、マップ増刷497千円が占めている。減価償却費の減は、電子掲示板を除却したことが要因である。行政収入の主なものは、都の区市町村観光インフラ整備支援補助金であり、補助対象事業の減少により、減額となった。
問題点・課題	①区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠であるが、そのためには、新たな情報発信ツールを積極的に開拓する必要がある。 ②今後増加する外国人観光客に向けた情報発信を積極的に行う必要がある。特に、旅行計画時における荒川区の認知度を高める施策が必要である。 ③区の魅力を発掘し、区への来訪を促す新たな観光コンテンツを作り出す必要がある。

問題点・課題の改善策									
	令和5年度に取り組む具体的な改善内容			令和5年度に実施した改善内容および評価			令和6年度以降に取り組む具体的な改善内容		
①	引き続き、SNSでの情報発信を進めるほか、外部媒体の開拓を進める。			イベントにおける積極的なSNS発信を進めるとともに、外部サイト（まとめサイト・地域情報サイトなど）との連携にも取り組んだ。			引き続き、荒川区内の情報を扱うメディアや、観光情報を扱うメディアの発掘・連携を深める。		
②	引き続き、外国人観光客向けの区内観光PR動画の製作を行い、YouTubeなどSNSでの情報発信を行う。			区主催のイベントの動画を作成し、動画配信サイトやSNS等で発信し、旅行計画時における区の認知度を高める取組を行った。			引き続き、外国人観光客向けの区内観光PR動画の製作を行い、動画配信サイトやSNS等の他新たな情報発信を図る。		
③	他地域でのデジタルスタンプラリー、観光アプリ内での区外を含めたコンテンツの搭載など、新たな魅力づくりを進める。			日暮里道灌まつり開催日に、太田道灌ゆかりの地を巡るデジタルスタンプラリーを実施することで、新たな魅力づくりに努めた。			新たなテーマのもと、デジタルスタンプラリーを実施し、新たな魅力づくりを進める。		
他 施 区 状 況 の 実 況	（実施	22	区	未実施	0	区	不明	0	区）
議 会 （ 要 旨 ） 質 問 状 況	平成24年1定 日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。 平成28年度決特 海外の有名なブロガーを活用した情報発信を行ってはどうか。								

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-02		戦略プラン		● 協働		○ 業務		○ 財務		○ 人事	
事務事業名	荒川区観光大使PR事業		部課名		産業経済部観光振興課		課長名		杉山			
			担当者名		仁平		内線		461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（6年度）		01-01-02		荒川区観光大使PR事業								
事務事業の種類		○ 新規事業（○ 6年度 ○ 5年度）				○ 建設事業		● それ以外の継続事業				
開始年度		平成 18（2006）年度		根拠		荒川区観光大使設置要綱						
終期設定		● 有 ○ 無 令和 7（2025）年度		法令等								
実施基準		○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分		○ 計画		● 非計画				
行政評価事業体系		分野		Ⅲ		産業革新都市						
		政策		06		人が集う魅力あるまちの形成						
		施策		02		受入体制の充実と観光情報の発信						
目的		「荒川区観光大使」によるPR活動で、区のイメージアップを図る。										
対象者等		荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 区民、区外の人々及び来訪者										
内容		(観光大使) 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名 ①区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフレット等）を随時提供。 ②観光大使用PR物品を作成し、それぞれの立場において機会のあるごとに荒川区をPRしてもらう（名刺、都電荒川線ポストカード等） ③区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。										
経過		平成19年度 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成(23年度改訂) 平成21年度 区長との意見交換会を実施(城戸氏、好楽氏、井崎氏が出席) 平成22年度 区長との意見交換会を実施(好楽氏、井崎氏が出席) 平成28年度 観光大使名刺提示による特典の拡大(区施設(あらかわ遊園、荒川ふるさと文化館)の利用料無償化)										
必要性		著名人の幅広い人脈を活かし、区の知名度とイメージの向上を効果的に図ることができる。										
実施方法		(1直営) (直営の場合 ● 常勤職員 ○ 会計年度任用職員)										
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明				
			3年度	4年度	5年度	6年度見込み	目標値(8年度)					
	①	観光大使への情報提供回数	5	10	10	12	12					
	②											
③												
事務事業の分類			分類についての説明・意見等									
6年度		7年度										
継続		継続		観光大使のPR力を活用し、区の魅力を発信するため、継続して実施する。								

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	大使名刺印刷	77	需用費	ポストカード作成	58	需用費	大使名刺印刷	88
							使用料及び賃借料 会食会場使用料	19
						需用費	観光大使会食費	45

備考	行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主であり、内訳は、観光大使が配布するポストカードの作成である。
問題点・課題	観光大使に荒川区の魅力をPRしてもらうために、区の最新動向等をきめ細かく情報提供していく必要がある。

問題点・課題の改善策			
	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	引き続き、イベント等の実施予定など、こまめな情報提供を行う。	実施予定のイベントについて、こまめに情報提供を行うことができた。	引き続き、実施予定のイベント等について、情報提供を行う。
②			
③			
他 施 区 区 実 況	（実施 13 区 千代田区、中央区（ミス中央）、港区、新宿区（観光特使）、台東区、品川区、大田区（観光PR特使）、渋谷区、中野区、豊島区、板橋区、葛飾区、北区（アンバサダー）	未実施 9 区 不明	0 区
議 会 質 問 状 況 （ 要 旨 ）	平成27年度予特 平成27年度予特 平成29年度予特 令和4年度予特 令和5年度予特	著名人ではなく、一般の方による区の魅力発信を行ってはどうか。 観光大使の増員について 一般公募の大使等、他自治体の実状も含めて研究してみてもどうか。 観光大使の増員について 観光大使の活動状況について	

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-03		戦略プラン	☒ 協働	☐ 業務	☐ 財務	☐ 人事	
事務事業名	産業観光推進事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	杉山	
			担当者名	古茂田		内線	462	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）	01-02-01		産業観光推進事業					
事務事業の種類	☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業			
開始年度	平成 14	（ 2002 ）	年度	根拠	荒川区モノづくり見学・体験スポット整備支援			
終期設定	☐ 有 ☒ 無	（ ）	年度	法令等	事業要綱			
実施基準	☐ 法令基準内	☐ 都基準内	☒ 区独自基準	計画区分	☒ 計画	☐ 非計画		
行政評価 事業体系	分野	Ⅲ 産業革新都市						
	政策	06 人が集う魅力あるまちの形成						
	施策	01 観光資源の発掘とにぎわいの創出						
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品を紹介するとともに、区民等のモノづくり見学・体験スポットの利用を通じて、モノづくりのまちあらかわの周知と産業観光を推進する。							
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	【モノづくり見学・体験スポット整備支援事業】 工房等を一般公開する者をスポット（以下「モノスポ」）として認定し、必要に応じて改修等の費用を補助。2/3補助（上限100万円）（累計44件、内訳：活動中31件、廃止13件）。 【モノフェスinにっぽり】 モノづくり見学・体験スポット事業者と日暮里繊維街が出店するモノづくり体験イベント。 【その他】 ・荒川ブランド（伝統工芸や荒川マイスター等の商品を紹介する冊子）の作成・配布 ・あらかわの伝統技術展等に観光PRブースの設置							
経過	平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始 平成20年度 ①都電ウオークラリーを分離し、単独事業へ。 ②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合。 ③伝統技術展を経営支援課へ移管。 平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え 【「荒川ブランド」紹介冊子の内容】 ①「荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1」平成17年度発行 ②「伝統工芸品・荒川マイスター製品編」平成18・20・22・25・28・令和2年度改訂 （伝統工芸品41商品/48名＋荒川マイスター製品23商品/23名＋リストのみ12名＝計64商品/83名） ※同一屋号は連名にて掲載するため、商品数と人数が異なる場合がある。							
必要性	モノづくりのまちあらかわの地域資源を活かし産業観光を推進することで、地域産業の活性化を促進する必要がある。							
実施方法	（ ☐ 一部委託 ） （ 直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員 ）							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	①	産業観光イベント来場者満足度 (%)	-	-	85	90	95	満足度5段階中4以上と回答した人の割合（小数点以下四捨五入）
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度	7年度							
推進		推進	モノづくりのまちあらかわを区内外に向け広く周知するため、モノづくり見学・体験スポットの拡大とPRの充実を図る取組を推進する。					

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	イベント報償費	56	報償費	イベント報償費	56	報償費	イベント報償費	125
旅費	他自治体へのイベント出展	170	旅費	他自治体へのイベント出展	210	旅費	他自治体へのイベント出展	166
需用費	イベント消耗品ほか	133	需用費	イベント消耗品ほか	15	需用費	イベント消耗品ほか	30
役務費	イベント運送費ほか	129	役務費	イベント運送費ほか	100	委託料	会場設営費ほか	8,538
委託料	会場設営費ほか	1,829	委託料	会場設営費ほか	4,213	負担金補助等	モノスポ整備補助金	1,000
使用料等	会場使用料	440	使用料等	会場使用料	440			
負担金補助等	モノスポ整備補助金	0	負担金補助等	モノスポ整備補助金	698			

備考	行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主であり、内訳は、各事業の企画・運営・広報・会場設営等の委託料である。物件費の増は、新規事業(モノフェスinにつぼり)にかかる委託料が主な要因である。5年度の都支出金については、モノフェスinにつぼりにかかる単年度補助である。
問題点・課題	・区民以外にも「モノづくりのまちあらかわ」をPRするため、既存事業の広報について検討する必要がある。 ・インバウンド向け新規イベントや既存の「モノフェスinにつぼり」等、事業内容毎にターゲット層を集客できる会場を検討することが必要である。 ・外国人観光客を受け入れることができる体制整備を行う必要がある。

問題点・課題の改善策			
	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	対面型イベントをメインとし、積極的にモノづくりのまちをPRしていく。	新たな試みとして8月に、体験型イベント「モノフェスinにつぼり」を開催し、盛況であった。	新規にインバウンド向けイベントを実施する。
②	集客力や地域経済の活性化などの観点から、より効果的な会場を検討する。	「モノフェスinにつぼり」の会場として、ふらっとにつぼりを使用し、区外から区内へ集客することができた。	新規に実施するイベントの効果検証を行い、より効果の高いPRができるよう検討する。
③	対面型イベントをメインとし、より充実させる。コロナ禍前までの経験と反省を活かす。	日暮里繊維街と連携したイベントを開催し、内容を充実させた。	引き続き、モノづくり見学・体験スポットの新規開拓に努める。
他 施 況 の 実 況 （ 要 旨 ）	（実施 5 区 未実施 15 区 不明 2 区） 関連事業実施区：墨田区（すみだモダンブランド認証事業、すみだファクトリーめぐり）、大田区（おおたオープンファクトリー）、江東区（江東ブランド推進事業）、足立区（足立ブランド事業）		
議 会 質 問 状	平成17年2定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき		

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-04		戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事	
事務事業名	観光イベント支援事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	杉山	
			担当者名	古茂田・仁平・加茂・増山		内線	461	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業						
	01-03-02	観光イベント助成費						
	01-03-03	隅田川花火大会事業費						
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 6年度 ○ 5年度）			○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 62（ 1987 ）	年度	根拠	川の手荒川祭り実行委員会実施事業補助金交付				
終期設定	● 有 ○ 無	令和 7（ 2025 ）	年度	法令等	要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画				
行政評価 事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	区民等の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。							
対象者等	区民主体の民間団体 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	1 川の手荒川まつり実行委員会補助 ・ 令和3年度（オンライン開催）4,282千円 ・ 4年度（中止）149千円 ・ 令和5年度20,189千円 2 観光振興事業補助等 ・ 令和3年度 2件 350千円（観光イベント支援300千円、観光振興事業50千円） ・ 令和4年度 1件 50千円（観光振興事業50千円） ・ 令和5年度 7件 805千円（観光イベント支援600千円、観光振興事業150千円、交通事業者関連事業55千円） 3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・ 令和3年度0円（中止） ・ 令和4年度0円（中止） ・ 令和5年度4,682千円							
経過	○川の手荒川まつり 毎年4月29日（祝）に実施。平成17年度の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で順に開催することとしたが、交通アクセスや各会場固有の課題が生じ、令和4年度の実行委員会では当面の間、南千住野球場で開催することとした。 ○シダレザクラ祭り補助金 平成23年度に公園緑地課（現在の土木管理課）に移管 ○駅からハイキング関連事業補助 平成23年度に産業観光推進事業から組み替え ○隅田川花火大会 平成24年のスカイツリー開業を契機に観覧者が増加し、実行委員会や東京都からの要請もあり25年度から実行委員会に参加							
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが期待できる。							
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 ○ 常勤職員 ○ 会計年度任用職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	①	観光イベント助成件数	2	1	7	11	13	日暮里駅前広場活用イベント補助を含む
	②	川の手荒川まつり来場者満足度(%)	-	-	93.7	93.5	95.0	新型コロナにより、3年度はオンライン開催、4年度は中止、。
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度	7年度							
推進	推進	区民・事業者の自主的活動は、観光振興による地域の活性化を図る上で欠かせないものであることから、今後も関係団体等に対する支援を推進する。						

予算・決算額等の推移		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
予算額		22,424	25,106	28,279	17,534	33,617	35,684	38,740
決算額（6年度は見込み）		21,087	23,469	3,328	3,881	198	29,109	38,740
実績 の 推 移	事項名（6年度は見込み）	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	シダレザクラ祭り参加者（人）	12,000	15,000	0	0	0	16,000	17,000
	事業補助金（日暮里イベント含む）	6	5	3	2	1	7	11
	川の手荒川まつり来場者（人）	50,000	38,000	0	0	0	40,000	39,000
	川の手荒川まつり参加団体	129	129	0	39	0	81	93

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	148	報酬	臨時職員報酬（川の手荒川まつり）	339	報酬	臨時職員報酬（川の手荒川まつり）	715
負担金補助等	観光振興事業補助金	50	職員手当等	時間外手当（川の手荒川まつり、隅田川花火大会）	854	職員手当等	時間外手当（川の手荒川まつり、隅田川花火大会）	730
			旅費	臨時職員通勤費（川の手荒川まつり）	5	旅費	臨時職員通勤費（川の手荒川まつり）	40
			需用費	隅田川花火大会用消耗品	89	需用費	隅田川花火大会用消耗品	100
			委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,146	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,999
			負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	5,487	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	9,214
			負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	20,189	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	24,942

(単位：千円)										
行政コスト計算書	勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額
	行政費用	給与関係費	5,892	14,050	8,158	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	0	2,240	2,240		国庫支出金	0	0	0
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
		補助費等	198	25,675	25,477		使用料及び手数料	0	0	0
		減価償却費	0	0	0		その他	0	0	0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	0	0	0
		賞与・退職給与引当金繰入額	719	2,719	2,000		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 6,809	▲ 44,684	▲ 37,875
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)		6,809	44,684	37,875	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 6,809	▲ 44,684	▲ 37,875
	特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 6,809	▲ 44,684	▲ 37,875	

借	令和5年度は、各種イベントが再開されたことで、補助費・物件費が増加した。
---	--------------------------------------

問題点	①川の手荒川まつりについては、来場者に楽しんでいただける開催内容を充実していく必要がある。 ②隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整し、万全な安全対策を講じる必要がある。
-----	---

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	来場者アンケートなどを踏まえ、開催内容の検討を行う（川の手荒川まつり）。	スマートフォンによる来場者アンケートを実施し、満足度が高いことが確認できた。	引き続き、来場者アンケートを実施し、来場者の満足度を確認し、開催内容の充実を図る。
②	新型コロナウイルス感染症に対する方針を注視し、会場開催の準備・検討を行う（隅田川花火大会）	隅田川花火大会実行委員会の開催意向を受け、新型コロナウイルス感染者数を注視しながら、4年ぶりに開催した。	観覧客の安全を確保するため、警察署等関係機関と課題を共有し、安全対策を実施する。
③			

他区の実 施状況	(実施		0	区	未実施		22	区	不明		0	区)

況 (要 質 問 旨)	平成14年3定	都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について
	平成16年1定	沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について
	平成17年2定	日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。
	平成27年度決特	人が集まる隅田川花火大会を観光振興や商業振興に活用すべきと考えるが区の見解は。
	平成27年度予特	観光資源としての富士見坂の活用について

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード		06-04-05		戦略プラン		☒ 協働 ☐ 業務 ☐ 財務 ☐ 人事		
事務事業名		観光振興懇談会運営費		部課名		産業経済部観光振興課		
				課長名		杉山		
				担当者名		加茂		
				内線		3563		
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）		01-04-01		観光振興懇談会運営費				
事務事業の種類		☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業		
開始年度		平成 18（2006）年度		根拠		荒川区観光振興懇談会設置要綱		
終期設定		☒ 有 ☐ 無 令和 7（2025）年度		法令等				
実施基準		☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分		☒ 計画 ☐ 非計画		
行政評価 事業体系		分野		Ⅲ 産業革新都市				
		政策		06 人が集う魅力あるまちの形成				
		施策		02 受入体制の充実と観光情報の発信				
目的		観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会を開催し、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討を行う。懇談会の提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。						
対象者等		学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等						
内容		【平成19～22年度】18年度の調査報告書、懇談会提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証 【平成27年度】2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えてさらなる誘客を図るため、新たな観光振興懇談会報告書を作成。 【平成28～令和元年度】実施事業の報告に加え、今後の観光施策の課題（28年度）、今後の荒川区の観光施策（太田道灌）（29年度）、区内観光関連事業者等からのヒアリング（30年度）、日暮里繊維街でのフィールドワーク（元年度）を実施。【令和2年度】「コロナ禍における観光振興」をテーマに意見交換 【令和3年度】「デジタル技術を活用した荒川区の観光振興の充実に向けて（提言）」の作成 【令和4～5年度】「シェアリングエコノミー導入に向けての講演会」（4年度）、「日暮里繊維街フィールドワーク及び意見交換」（5年度）						
経過		【平成18年度】様々な分野の有識者で構成する観光振興懇談会を5回開催し、観光振興の目指すべき方向性と具体的施策について検討し、提言を報告書としてまとめた。 【平成19年度から平成22年度】 18年度の調査報告書と懇談会報告書の提言に基づき、区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証（19年2回、20年3回、21年1回、22年1回）【平成24年度】観光事業コンサルタントによる講演会、意見交換である研究会を1回実施 ※平成23年度、25年度、26年度は未実施 【平成27年度】観光振興懇談会を3回開催し、座長から区長への荒川区観光振興懇談会報告書手交実施 本報告書により、地域経済・産業の活性化、住民の地域に対する誇りの高揚や来訪者との交流による地域活性化を図り「人が集う魅力あるまちの形成」を目指すことを確認 【平成28年度～令和5年度】各年度、荒川区観光振興懇談会を1～2回実施						
必要性		専門家からの提言・助言を活かし、より効果的な区の観光振興施策を推進していくことが期待出来る。						
実施方法		（1直営）（直営の場合 ☒ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員）						
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	① 懇談会の開催(回)	1	1	1	2	2		
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度		7年度						
継続		継続		有識者や関係団体の意見を踏まえ、より具体的かつ効果的な施策に反映するため、継続して実施する。				

予算・決算額等の推移		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
予算額		248	248	248	248	248	292	292
決算額（6年度は見込み）		60	162	145	102	155	103	292
実績 の 推 移	事項名（6年度は見込み）	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	観光基礎調査	—	—	—	—	—	—	—
	懇談会（回）	1	1	1	1	1	1	2
	懇談会専門部会（回）	—	—	—	—	—	—	—
	研究会（回）	—	—	—	—	—	—	—

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	懇談会委員謝礼等	153	報償費	懇談会委員謝礼等	100	報償費	懇談会委員謝礼等	249
需用費	懇談会賄い等	2	需用費	懇談会賄い等	3	需用費	懇談会賄い等	22
						消耗品費	消耗品	21

(単位：千円)										
行政コスト計算書	勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額
	行政費用	給与と関係費	1,964	378	▲ 1,586	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	2	3	1		国庫支出金	0	0	0
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
		補助費等	153	100	▲ 53		使用料及び手数料	0	0	0
		減価償却費	0	0	0		その他	0	0	0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	0	0	0
		賞与・退職給与と引当金繰入額	240	80	▲ 160		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 2,359	▲ 561	1,798
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)		2,359	561	▲ 1,798	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 2,359	▲ 561	1,798
	特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 2,359	▲ 561	1,798	

行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主であり、内訳は、観光振興懇談会委員への報償費である。

問題	日暮里繊維街の観光資源としてのポテンシャルを最大限に引き出すため、引き続き連携して事業を行っていく必要がある。
----	---

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	荒川区で適用可能なシェアリングエコノミーについて、具体的に方式等検討する。	シェアリングエコノミーを活用した取組を検討し、既存事業を活用した周遊型イベントを実施した。	観光における課題への対応について、引き続き連携して取り組んでいく。
②			
③			

其他	(实施 0 区 未实施 22 区 不明 0 区)
----	----------------------------

況議 (要質)	平成29年度11月会議 荒川区観光協会の設立に向けて、区内各団体同士の協議の場を設定し、設立に向けて働きかけるべきと考えて欲しい。 平成26年度予特 2020年の東京オリンピックまでに、観光客誘客のための戦略を示して欲しい。
------------	---

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード		06-04-06		戦略プラン		☒ 協働		☐ 業務		☐ 財務		☐ 人事	
事務事業名		都電荒川線活用事業		部課名		産業経済部観光振興課		課長名		杉山			
				担当者名		加茂		内線		3563			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（6年度）		01-02-02		都電荒川線活用事業									
事務事業の種類		☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）						☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業			
開始年度		平成 19（ 2007 ）年度		根拠									
終期設定		☐ 有 ☒ 無		（ ）年度		法令等							
実施基準		☐ 法令基準内		☐ 都基準内		☒ 区独自基準		計画区分		☒ 計画		☐ 非計画	
行政評価事業体系		分野		Ⅲ		産業革新都市							
		政策		06		人が集う魅力あるまちの形成							
		施策		01		観光資源の発掘とにぎわいの創出							
目的		区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度とイメージアップを図る。											
対象者等		区民、区外の人々及び来訪者											
内容		【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度協議会設立） ・都電荒川線沿線絵画コンテスト(平成23、24年度) ・都電荒川線沿線スタンプラリー(平成25年度～)※令和2年度以降はクイズラリー 令和3年度実績：中止 令和4年度実績：9月30日（金）～11月11日（日）に実施、商品応募数1,724人 令和5年度実績：10月1日（日）～10月31日（火）に実施、商品応募数2,204人 【都電特別号の運行】平成24年～ バラ号(5月)、ハロウィン号(10月)、さくら号(3～4月)、おもいで号（平成26年10月） 【ラッピング都電の運行】平成27年度：俳句のまちPRラッピング都電（11月～）※令和4年度に廃止 【都電DE俳句】令和元年度：12月13日・15名参加、3月6日・中止、令和2年度・3年度：中止、令和4年度：11月30日・57名参加、令和5年度：11月29日・13名参加（※2名欠席）											
経過		平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」 ・都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施 平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」 ・荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など ・記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 平成25年度：都電荒川線沿線4区地域活性化協議会による「都電荒川線スタンプラリー」を実施 平成27年度：都電1台に俳句のまちPRラッピングを実施、ラッピング都電を活用した俳句講座を実施 平成28年度～30年度：あらかわ遊園水辺フェスタで、都電を活用したイベント(マジックショー)を実施 平成30年度：俳句のまちPRラッピングのデザイン更新											
必要性		区の観光資源である都電荒川線を活用したイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップやPRにとどまらず、商店街をはじめとした地域の活性化に繋がることが期待できる。											
実施方法		（ 1直営 ） （ 直営の場合 ☒ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員 ）											
指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明						
		3年度	4年度	5年度	6年度見込み	目標値(8年度)							
	① 都電荒川線沿線クイズラリー参加者数（人）	0	1,724	2,204	2,300	2,300	賞品応募者数（3年度は中止）						
	②												
③													
事務事業の分類		分類についての説明・意見等											
6年度		7年度											
継続		継続		東京都交通局と沿線3区等と連携し、荒川区をはじめ都電荒川線沿線地域全体の活性化を図るため、取組を継続する。									

予算・決算額等の推移		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
予算額		192	196	318	318	318	534	527
決算額（6年度は見込み）		128	133	169	0	161	367	527
実績 の 推移	事項名（6年度は見込み）	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	都電荒川線沿線クイズラリー（参加者数）	1,670	1,611	1,149	0	1,724	2,204	2,300
予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	スタンプラリー景品ほか	161	需用費	クイズラリー景品ほか	367	需用費	クイズラリー景品ほか	527

(単位：千円)										
行政コスト計算書	勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額
	行政費用	給与と関係費	1,571	1,891	320	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	161	367	206		国庫支出金	0	0	0
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
		補助費等	0	0	0		使用料及び手数料	0	0	0
		減価償却費	0	0	0		その他	0	0	0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	0	0	0
		賞与・退職給与と引当金繰入額	192	400	208	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,924	▲ 2,658	▲ 734	
		その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)		1,924	2,658	734	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 1,924	▲ 2,658	▲ 734
	特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 1,924	▲ 2,658	▲ 734	

備 考	行政費用では、給与関係費または賞与・退職給与引当金繰入額を除くとクイズラリーの景品やポスター印刷等の物件費のみである。
--------	---

問題点・課題	①都電沿線地域の活性化のため、イベントでの都電活用に加え、引き続き東京都交通局と沿線3区と連携し、各駅の観光スポットや沿線情報を掲示し、都電沿線の魅力を発信していく必要がある。 ②都電と俳句・バラ・あらかわ遊園等の沿線の魅力を関連付け、「都電の走るまちあらかわ」を掲げるなど、関係機関とも連携して、効果的に情報発信する必要がある。 ③都電に特化したイベントの実施やガイドブックの作成等、更なる魅力発信に努める必要がある。
--------	---

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	都電荒川線沿線4区地域活性化協議会において、事業を引き続き継続・検討していく。	同協議会が主催の都電沿線クイズラリーの実施により、観光スポットを周遊してもらうことで、荒川区の魅力を広めた。	引き続き、東京都交通局と都電荒川線沿線3区と連携し、取組を継続する。
②			
③			

他 区 ・ 都	（実施	3	区	未実施	19	区	不明	0	区）
	・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に参加（新宿区、豊島区、北区）								

況 議 会 質 問 状 (要旨)	平成18年4定	都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。
	平成24年3定	都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。
	平成26年度予特	あらかわ遊園を活用して商店街振興に貢献するような取組みは検討しているか。
	平成27年度予特	あらかわ遊園と都電を活用したイベントで地域ににぎわいが期待できるが区の認識は。
	平成27年度予特	あらかわ遊園と都電は区の観光資源であるが、それらをどのように活用しているか。

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-07		戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事	
事務事業名	受入体制整備事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	杉山	
			担当者名	古茂田・野村		内線	462	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）	01-02-03		受入体制整備事業					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 6年度 ○ 5年度）		○ 建設事業		● それ以外の継続事業			
開始年度	平成 17	（ 2005 ）	年度	根拠	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助			
終期設定	○ 有 ● 無	（ ）	年度	法令等	金交付要綱等			
実施基準	○ 法令基準内 ● 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画		○ 非計画		
行政評価 事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信					
目的	観光案内所等を拠点とし、区の魅力を広く情報発信するとともに、来訪者の受入体制を整備するなどおもてなしの向上を図ることで、区の魅力を高め誘客を促進する。							
対象者等	区民及び区外からの来訪者、区内の宿泊施設及び飲食店							
内容	【観光案内所の運営】日暮里観光案内所における観光情報の発信 開設日：年末年始を除く毎日 10時～16時 R5年度12月 日暮里観光案内所のブースを改修 2名体制での営業が可能となった 【観光案内標識設置事業】東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 H17年度 日暮里地区4基設置 H18年度 南千住地区5基設置 H19年度 都電川線沿線5基設置 H20年度 汐入地区5基設置 H22年度 三ノ輪停留場標識を都から移管 H29年度 20基盤面改訂 【外国人来訪者受入体制整備事業】外国人受入環境整備に対する補助事業、外国人向けイベント実施 区内の宿泊施設、飲食店を営む事業者が外国語版のホームページ、パンフレット等を新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助（平成20年度～）、Wi-Fiスポット2ヶ所整備 【観光ボランティアガイド】まちあるきをはじめとした観光案内の実施、まちあるきガイドの養成 ガイド登録者数：156名（延べ）※現在登録者数：28名（うち休会者2名）							
経過	【観光案内所整備運営事業】 平成28年度 日暮里観光案内所、南千住観光おもてなしサロン開設（南千住は、平成29年11月閉鎖） 【観光案内標識設置事業】 平成17年度 事業開始（観光案内標識設置事業から組み替え） 【観光ボランティアガイド事業】 平成18年度 養成講座の開始、ガイドの活動開始（観光情報提供事業として） 【外国人来訪者受入体制整備事業】 平成20年度 事業開始 平成26年度 要綱を一部改正（対象事業を飲食店にも拡充） 平成27年度 要綱を一部改正（宿泊施設・飲食店ともに対象事業を拡充） 平成29年度 日本文化体験イベント（日本舞踊体験、商店街ツアー）開始（令和2年度に事業終了） 令和5年度 訪日外国人向け観光WEBサイト運用開始							
必要性	多言語案内や標識等の整備を進めることで、外国人をはじめとした観光客に荒川区の観光における満足度を高め、リピーターとしての来訪者の増加が期待できる。							
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 ○ 常勤職員 ○ 会計年度任用職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み		目標値 (8年度)
	①	日暮里観光案内所等利用者数 (人)	10,000	18,127	33,200	34,000	36,300	年度実績数 3?4年度はコロナで減少
	②	観光ボランティアガイドの活動 (回)	0	3	11	15	35	公募及び依頼型での活動数 3?4年度はコロナで減少
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度		7年度						
重点的に推進		重点的に推進		観光案内所におけるきめ細かな観光案内をはじめ、観光案内標識の整備、観光ボランティアガイドの養成など、来訪者の受入環境の整備を重点的に推進する。				

予算・決算額等の推移		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
予算額		5,997	11,896	7,128	6,950	6,842	14,558	8,540
決算額（6年度は見込み）		3,280	9,800	3,021	3,854	4,831	12,478	8,540
実績 の 推 移	事項名（6年度は見込み）	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	観光案内標識設置	—	—	—	—	—	—	—
	観光案内標識内容更新・修正	—	1	5	5	5	4	5
	外国語版HP作成支援	0	0	0	0	0	0	2
	観光ボランティアガイドの活動（回）	34	21	0	0	3	11	15

予算・決算の内訳

令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	観光案内所スタッフ謝礼、ガイド養成講座講師謝礼等	3,027	報償費	観光案内所スタッフ謝礼ほか	3,067	報償費	観光案内所スタッフ謝礼ほか	4,463
需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	124	需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	118	需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	144
役務費	公衆WiFi・案内所通信費・ガイド保険料ほか	577	役務費	公衆WiFi・案内所通信費・ガイド保険料ほか	581	役務費	公衆WiFi・案内所通信費・ガイド保険料ほか	598
委託料	観光案内所標識盤面修正委託ほか	706	委託料	訪日外国人向け観光WEB作成委託ほか	8,219	委託料	訪日外国人向け観光WEB保守委託ほか	2,343
使用料等	案内所賃料	396	使用料等	案内所賃料	493	使用料等	案内所賃料	792
負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	0				負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	200

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			4年度	5年度	差額	勘定科目			4年度	5年度	差額
	行政費用	給与関係費	4,321	8,698	4,377	行政収入	地方税等	0	0	0		
		物件費	1,792	6,041	4,249		国庫支出金	0	0	0		
		維持補修費	0	0	0		都支出金	197	1,809	1,612		
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0		
		補助費等	3,039	3,083	44		使用料及び手数料	0	0	0		
		減価償却費	161	0	▲ 161		その他	0	0	0		
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	197	1,809	1,612		
		賞与・退職給与引当金繰入額	527	1,840	1,313		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 9,643	▲ 17,853	▲ 8,210		
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0		
		行政費用合計(b)	9,840	19,662	9,822		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 9,643	▲ 17,853	▲ 8,210		
	特別費用(g)	0	323	323	特別収入(f)	0	0	0				
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	▲ 323	▲ 323	当期収支差額(e)+(h)	▲ 9,643	▲ 18,176	▲ 8,533				

備考

行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主であり、内訳は、訪日外国人向け観光WEBサイト構築及び運用保守業務等である。減価償却費の減は、旧日暮里観光案内所ブースを除却したことが要因である。

問題点・課題

①外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金のPRを積極的に行い、事業者の支援につなげることで、外国人観光客の受入体制の整備充実を図る必要がある。

②新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一時は日暮里観光案内所利用外国人数は減少していたが、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症分類が5類に移行したことにより、増加している。公共交通機関等の案内など旅行者に寄り添った、一層きめ細やかなサービスが必要である。

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	回復しつつあるインバウンドに対応するため、老朽化した日暮里観光案内所を改修する。	日暮里観光案内所のリニューアルにより、スタッフ2名での運営も可能となるよう、増床を行った。	インバウンドに対応するため、スタッフを一部委託化することにより、繁忙期は2名体制での運営を行う。
②	訪日外国人向けの観光PRデジタルコンテンツを作成し、当区への来訪を促す。	訪日外国人向け観光Webサイトを構築した。	Webサイトの充実を図り、魅力的な観光PRを行うことで、来訪を促す。
③			

他 区 の 実 施 状 況	(実施 15 区 未実施 0 区 不明 7 区)			
	観光案内標識…台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他			

況 議 会 （ 要 質 問 旨 ）	平成20年3定	外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
	平成28年度決特	区内の日本語学校生徒の通訳ボランティアとしての活用について
	平成28年度決特	日暮里活性化施設を活用した区内への誘客について
	令和4年度決特	フィルムコミッションの状況について
	令和4年度観光文化	観光協会の設立について

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-09		戦略プラン	☐ 協働	☐ 業務	☐ 財務	☐ 人事	
事務事業名	俳句活用事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	杉山	
			担当者名	加茂		内線	3563	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）	01-05-01		俳句活用事業					
事務事業の種類	☒ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業			
開始年度	平成 27	（ 2015 ）	年度	根拠				
終期設定	☒ 有 ☐ 無	令和 7	（ 2025 ）	年度	法令等			
実施基準	☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分	☒ 計画 ☐ 非計画				
行政評価 事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区俳句のまち宣言に基づき、俳句のまちであることを区内外に向け広くPRする各種事業を実施することで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出する。							
対象者等	・ 区民、区外の人々及び来訪者 ・ 奥の細道サミット参加自治体							
内容	俳句及び奥の細道に所縁の深い区として、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地千住あらかわ」を広く内外へPRし、区外からの誘客を促進するとともに、地域の賑わいを創出する。 [令和4年度関連事業(イベント関連)] ①フォト俳句コンテスト(募集期間 令和4年10月1日～令和5年1月13日 応募作品数850句) ②都電DE俳句(令和4年11月30日、募集15名、応募52名、参加15名) [令和5年度関連事業(イベント関連)] ①千住まちあるきツアー（5月28日、募集40名、応募167名、参加32名※8名欠席） ②フォト俳句コンテスト(募集期間 令和5年10月1日～令和6年1月12日 応募作品数764句) ③都電DE俳句(令和5年11月29日、募集15名、応募45名、参加13名※2名欠席)							
経過	荒川区は奥の細道所縁の自治体・団体が加入している「奥の細道サミット」に平成19年度から参加しており、平成27年3月14日に「奥の細道千住あらかわサミット」を開催した。また、サミット同日には、「荒川区俳句のまち宣言」を発表し、以降様々な俳句文化の振興に取り組んでいる。 [サミット開催状況] H29年度 富山県高岡市 H30年度 山形県大石田町 R1年度 石川県金沢市 R22年度 東京都江東区 R3年度 岩手県平泉町・一関市 R4年度 埼玉県草加市 R5年度 宮城県多賀城市 [近年実施した主なイベント] R2年度 ラッピング都電（運行）、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金 R3年度 ラッピング都電（運行）、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金、関連自治体への出店 R4年度 都電DE俳句、フォト俳句コンテスト、関連自治体への出店 R5年度 千住まちあるきツアー、都電DE俳句、フォト俳句コンテスト、関連自治体への出店							
必要性	「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地千住あらかわ」を継続してPRしていくことで、区内への誘客及び地域の活性化の双方において、大きな効果が期待できる。							
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員)							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	①	俳句関連イベント参加者満足度 (%)	-	93	94	95	95	
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度	7年度							
推進	推進	区外からの誘客を促進し、地域の活性化を図るため、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地あらかわ」を活用した観光振興事業を推進する。						

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-10		戦略プラン		☒ 協働 ☐ 業務 ☐ 財務 ☐ 人事			
事務事業名	あらかわの伝統野菜PR事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	杉山		
			担当者名	野村	内線	3563		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（6年度）		01-01-03	あらかわの伝統野菜PR事業					
事務事業の種類	☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業			
開始年度	平成 24	（ 2012 ）	年度	根拠				
終期設定	☒ 有 ☐ 無	令和 7	（ 2025 ）	年度	法令等			
実施基準	☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分	☐ 計画 ☒ 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	地域の活性化や区民の郷土愛の向上を目指して、かつて江戸時代に荒川区で生産されていた三河島菜など荒川区の地名を冠した野菜を復活させる取り組みを行い、江戸東京野菜として区内外に広くPRを行う。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者、区内協力店舗等							
内容	①都立農産高校との連携（平成24年度～） ・平成24年、園芸部にて三河島菜と汐入大根の試験栽培を開始（汐入大根は不作）、翌年より授業として三河島菜を栽培 ・生徒が「にっぽりマルシェ」にて、三河島菜を販売、三河島菜の研究成果を「にっぽりマルシェ」にてブース展示、来場者に説明（平成27年度～令和元年度） ・生徒が「日暮里道灌まつり」にて、三河島菜を販売、三河島菜の研究成果をブース展示、来場者に説明（令和4年度～） ②区役所内レストランさくらでの三河島菜フェアの開催（平成25年度～） ・三河島菜を使用したメニューを日替わりで一週間提供 ③三河島菜イメージキャラクターの作成及びPRグッズの作成（平成26年度～） ・クリアファイル、トートバッグ、アームバッグ							
経過	【平成18年度】荒川ふるさと文化館にて「あらかわのお野菜 都市とお野菜」を開催。荒川区ゆかりの伝統野菜が現存しないか江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂氏が調査をしたところ、「仙台芭蕉菜」が、その子孫種であることが判明。大竹氏が、小平市の農家へ種を持ち込み栽培 【平成23年度】JA東京中央会が「青茎三河島菜」として江戸東京野菜に選定 【平成25年度～令和元年度】都立農産高校の生徒が「にっぽりマルシェ」にて三河島菜を販売 【平成26年度～】区から都立農産高校へ感謝状贈呈（毎年3月） 【平成30年度】汐入水辺フェスタに参加し、三河島菜を育てるワークショップを開催 【令和元年度、4～5年度】都立農産高校に講師を派遣し、勉強会を実施（令和5年度は、出席生徒数約140名）							
必要性	・新たな観光資源の創出には、更なる誘客の促進が不可欠である。 ・荒川区独自の文化を観光資源に活用することは、区の魅力をPRするために重要である。							
実施方法	（ ☐ 一部委託 ） （ 直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員 ）							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度見込み	目標値(8年度)	
	①	三河島菜フェア満足度(%)	—	—	—	90	95	三河島菜フェア開催時のアンケート結果
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度	7年度							
継続		継続	伝統野菜である三河島菜の認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、今後もこれまでの取組を継続する。					

[illegible]

(単位：千円)										
行政コスト計算書	勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額
	行政費用	給与と関係費	1,571	2,269	698	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	8	9	1		国庫支出金	0	0	0
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
		補助費等	29	29	0		使用料及び手数料	0	0	0
		減価償却費	0	0	0		その他	0	0	0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	0	0	0
		賞与・退職給与と引当金繰入額	192	480	288		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,800	▲ 2,787	▲ 987
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
行政費用合計(b)		1,800	2,787	987	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 1,800	▲ 2,787	▲ 987	
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 1,800	▲ 2,787	▲ 987	

備考

行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主であり、内訳は、三河島菜勉強会講師謝礼である。

問題点・課題

- ・三河島菜が荒川の伝統野菜として区民に認知されつつあるものの、様々な団体と連携しながら今後も更なる情報発信を継続する必要がある。
- ・野菜やその種に区民が直接触れる機会が少ないため、そういった機会の創出を図る。

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	令和5年度以降も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行う。	「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を行った。	引き続き、「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を行う。
②	令和5年度以降も、各所と連携し、三河島菜をPRする機会を設ける。	各所と連携し、三河島菜フェアでは三河島菜メニューを提供した。	各所と連携し、三河島菜をPRする機会を設ける。
③	令和5年度以降も、新たな連携先の開拓について、検討していく。	日暮里道灌まつりにおいて、三河島菜を販売した。	引き続き、様々な団体と連携し、情報発信を継続していく。

他 区 の 実 施 状 況	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）							
議 会 質 問 状 況 （ 要 旨 ）	平成28年度予特 平成28年度予特	三河島菜の種をもっと広く一般の方が入手出来るようにしてはどうか。 尾久宮前小で育てている三河島菜の鉢植えを区役所に展示し、PRしてはどうか。						

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-11		戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事	
事務事業名	太田道灌魅力発信事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	杉山	
			担当者名	野村		内線	3563	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）	01-02-04	太田道灌魅力発信事業						
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 6年度 ○ 5年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業							
開始年度	平成 30	（ 2018 ）	年度	根拠				
終期設定	○ 有 ● 無	（ ）	年度	法令等				
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画				
行政評価 事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	日暮里地域には、勇壮な太田道灌の騎馬像や山吹の花一枝像、道灌山、道灌丘碑といった太田道灌に関する観光資源が点在している。太田道灌所縁の地であるということを観光資源とし、イベントやPR活動を行うことで、日暮里地域を活性化させ荒川区への来訪促進を図る。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者、区内外協力店舗等							
内容	1 日暮里道灌まつり 日暮里駅前イベント広場において、太田道灌に所縁のある自治体や店舗による出展のほか、ステージでの催し、パネル展示等を行う。 2 PR活動 ①区報、区ホームページ、区営掲示板、ケーブルテレビ、X（旧twitter）での紹介 ②観光パンフレットに掲載（おいでよ！あらかわ（区外向けパンフレット）、荒川区観光ボランティアガイドマップ、日暮里・舎人ライナー都電沿線まちあるきマップ） ③グッズの作成 令和5年度：ボールペン500個							
経過	日暮里道灌まつり 【平成30年度】10月20日（土）、21日（日）午前10時から午後5時まで ※にっぽりマルシェと同時開催 【令和元年度】11月9日（土）午前10時から午後4時まで ※都市交流フェアと同時開催 【令和2年度】オンライン開催 区施設でのパネル展（本庁舎10/12～23、ゆいの森10/16～30、西日暮里ギャラリー10/28～11/11）、区HPでの出展団体及び特産品の紹介（11/1～30）を行った。 【令和3年度】オンライン開催 ふらっとにっぽりでのパネル展・区HPで関係自治体等の紹介（12/1～15）及び区YouTubeで落語「道灌」（三遊亭王楽氏 ※荒川区観光大使である三遊亭好楽氏の兄弟弟子）の放映を行った。 【令和4年度】11月12日（土）午前10時から午後3時まで 【令和5年度】11月11日（土）午前10時から午後3時まで ※都市交流フェアと同時開催							
必要性	荒川区の歴史文化を観光資源として活用することにより、区の賑わいを創出し、地域経済の活性化するために必要である。							
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 ○ 常勤職員 ○ 会計年度任用職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	①	日暮里道灌まつり来場者満足度(%)	-	100	100	100	95	新型コロナのため、3年度はオンライン開催
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度		7年度						
推進		推進		太田道灌所縁の地である荒川区の認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、取組を継続する。				

予算・決算額等の推移			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
予算額			2,603	4,207	6,143	5,010	6,339	6,452	6,244
決算額（6年度は見込み）			2,330	3,879	33	220	5,331	5,902	6,244
実績の推移	事項名（6年度は見込み）		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	日暮里道灌まつり来場者数		5,000	2,000	0	0	2,000	2000	3000
	日暮里道灌まつり来場者満足度		85	90	0	0	100	100	100
予算・決算の内訳									
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）			
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	
需用費	PRグッズほか	342	需用費	PRグッズほか	189	需用費	PRグッズほか	656	
役務費	保険料	53	役務費	保険料	59	役務費	保険料	70	
委託料	委託料	4,937	委託料	委託料	5,654	委託料	委託料	5,518	

(単位：千円)										
行政コスト計算書	勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額
	行政費用	給与と関係費	2,749	1,891	▲ 858	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	5,279	5,844	565		国庫支出金	2,665	0	▲ 2,665
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
		補助費等	52	59	7		使用料及び手数料	0	0	0
		減価償却費	0	0	0		その他	0	0	0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	2,665	0	▲ 2,665
		賞与・退職給与と引当金繰入額	335	400	65		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,750	▲ 8,194	▲ 2,444
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)		8,415	8,194	▲ 221	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 5,750	▲ 8,194	▲ 2,444
	特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 5,750	▲ 8,194	▲ 2,444	

備考	行政費用では、給与関係費を除くと、物件費が主であり、内訳は、日暮里道灌まつり会場設営・運営委託等である。行政収入における令和4年度の国庫支出金は、日暮里道灌まつり開催にかかるもので、単年度補助である。
----	--

問題点	・太田道灌所縁の地であることを更にPRする方法を検討する必要がある。 ・太田道灌の関連自治体と交流を深め、連携することにより、太田道灌の魅力を発信する機会を増やしていく必要がある。
-----	---

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	他事業との連携を強化し、荒川区と太田道灌のつながりをより積極的にPRする。	同時期に開催した交流都市フェアと併せて告知したことで、来場者が増え太田道灌の魅力をよりPRすることができた。	引き続き、伊勢原甲冑隊や紙芝居等のステージショーを行い、太田道灌の魅力を発信する。
②			
③			

他 区 の 実 施 状 況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)			

況議 (要質 旨問)	平成29年度11月会議 太田道灌をテーマとし、ゆかりのある自治体等と連携したイベントを開催するなど、新たな誘客策に取り組むべき 平成29年度予特 太田道灌を軸とした交流を作り出し、関わりのある自治体と広く連携を進めるべき 令和4年度観光文化 太田道灌を活用した観光施策を行い、太河ドラマを誘致すべき
------------------	---

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	06-04-12		戦略プラン	☒ 協働	☐ 業務	☐ 財務	☐ 人事	
事務事業名	観光振興功労者表彰事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	杉山	
			担当者名	加茂		内線	3563	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）		01-06-01	観光振興功労者表彰事業					
事務事業の種類	☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業			
開始年度	令和 3	（ 2021 ）	年度	根拠	荒川区観光振興功労者表彰実施要綱			
終期設定	☒ 有 ☐ 無	令和 7	（ 2025 ）	年度	法令等			
実施基準	☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分	☐ 計画 ☒ 非計画				
行政評価 事業体系	分野	Ⅲ 産業革新都市						
	政策	06 人が集う魅力あるまちの形成						
	施策	01 観光資源の発掘とにぎわいの創出						
目的	区の観光振興に功績のあった団体や個人等の功績を広く周知することにより、区の観光振興につなげていくことを目的とする。							
対象者等	区の観光振興に功績のあった個人、団体							
内容	1 表彰基準 区の観光振興に貢献しており、以下のいずれかに該当していることとする。 （1）区の区域内において継続的に観光振興事業を実施し、又は観光振興事業に協力し、区の観光イメージの向上に貢献していること。 （2）区の観光資源の魅力向上又は発信をし、区の観光イメージの向上に貢献していること。 （3）新たな区の観光資源の創出に貢献していること。 （4）その他、区の観光振興及び地域振興への貢献が特に顕著であること。 2 表彰の方法 被表彰者に賞状及び記念品の授与を行う。 3 選考方法 外部委員を加えた選考委員会において、表彰基準に該当し、区が推薦する者について 諮問し、選考委員会からの答申を参考に被表彰者を決定する。							
経過	<歴代受賞者> R3年度 杉山 六郎（南千住コッ通り商店会会長、荒川区商店街連合会副会長） R4年度 東京都立農産高等学校 R5年度 該当なし							
必要性	区の観光振興に功績のあった個人や団体等の功績を表彰することで、区民等の観光振興への取組に対する意欲の向上が期待できる。							
実施方法	（ ☐ 直営 ☐ ） （直営の場合 ☒ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員）							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	①	被表彰者数（人）	1	1	0	2	2	
	②							
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度	7年度							
継続		継続	区民等の観光振興への取組に対する意欲の向上を図るため、継続して実施する。					

(単位：千円)

問題点・課題

①

施状況

議 会 質 問 状
況（要旨）

事務事業分析シート（令和6年度）										No1
事務事業コード		06-04-14			戦略プラン		☐ 協働 ☐ 業務 ☐ 財務 ☐ 人事			
事務事業名		日暮里駅前イベント広場活用事業			部課名		産業経済部観光振興課		課長名	杉山
					担当者名		古茂田		内線	462
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）		01-02-05		日暮里駅前イベント広場活用事業						
事務事業の種類		☒ 新規事業（ ☒ 6年度 ☐ 5年度）				☐ 建設事業		☐ それ以外の継続事業		
開始年度		令和 6（2024）年度		根拠						
終期設定		☒ 有 ☐ 無 令和 7（2025）年度		法令等						
実施基準		☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分		☐ 計画 ☒ 非計画				
行政評価 事業体系		分野		Ⅲ 産業革新都市						
		政策		06 人が集う魅力あるまちの形成						
		施策		01 観光資源の発掘とにぎわいの創出						
目的		区の観光資源である日暮里駅前イベント広場を活用し、日暮里地域への誘客を促進し、多くの来訪者が日暮里地域の魅力に触れる機会を創出する。								
対象者等		区民、区外の人々及び来訪者								
内容		【イベント内容（令和6年度予定）】 日暮里地域活性化事業連携に関する協定書に基づき、下記のイベントを京成フロンティア企画への委託により実施する。 ①にっぽりトレインフェス 多くの鉄道が行き交う日暮里駅前という立地特性を活かした子ども向けイベント（区に乗り入れがある鉄道会社等が出展） ②（仮称）推し活応援イベント 「布の街」日暮里繊維街のポテンシャルを活かした、推し活関連ワークショップ等の開催								
経過		これまで日暮里駅前イベント広場では、地元商店会によるイベントが月に4～10日程度開催されるなど積極的に活用され、日暮里地域の賑わいの創出に大きな効果を発揮していた。 しかし、商店会の解散や新型コロナウイルス感染症の影響等により、同広場の活用頻度が著しく減少し、現在は区直営の事業や、地元町会によるイベントが月に1日程度開催されるにとどまっている。 日暮里駅前イベント広場の賑わいを取り戻すため、新たな観光振興施策として、日暮里地域活性化事業連携に関する協定書に基づき、日暮里地域の賑わいの創出に資するイベントを実施する。								
必要性		成田空港に直結する日暮里駅前にあるという特性を活かし、観光イベントを開催することで賑わいを創出し、地域経済の活性化を図るために必要である。								
実施方法		（3委託）（直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員）								
指標	事務事業の成果とする指標名			指標の推移					指標に関する説明	
				3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)		
	①	イベント参加者満足度(%)		-	-	-	90	100		
	②									
③										
事務事業の分類			分類についての説明・意見等							
6年度		7年度								
重点的に推進		重点的に推進		区内外からの誘客を図り、多くの来訪者が日暮里地域の魅力に触れる機会を創出する取組を重点的に推進する。						

[illegible]

勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額
行政コスト計算書	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税等	0	0	0
	物件費	0	0	0		国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0		使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0		その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	0	0
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	0	0	0	通常収支差額(c)+(d)=(e)	0	0	0	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	0	0	0		

備考

問題点・課題

- ・地元商店会の解散や新型コロナウイルス感染症の影響等により、日暮里駅前イベント広場の活用頻度が減少している。
- ・日暮里地域の魅力を効果的にPRする方法を検討する必要がある。
- ・日暮里繊維街へ誘客を促進するイベントを実施する必要がある。

問題点・課題の改善策

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①			誘客に効果的なイベント内容について、検討する。
②			日暮里繊維街との連携のもと、地域の活性化に繋げられるイベントを実施する。
③			関係者と調整を図り、出展しやすい環境を整備する。

他 区 の 実 施 状 況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
議 会 質 問 状 況 (要 旨)	